

文書名	平成28年度 DAN運営委員会 議事録		
開催日	平成28年10月7日（金）	開催場所	東京
時間	15:00 ～ 17:40	進行／記録	事務局 小柳
出席者	【委員】鈴木委員長、麻生委員、河合委員、芝山委員、小島委員、栗山委員、岸部委員 吉田委員、竜崎委員、宮下委員、中野委員 【代理出席】一本木委員（営業第三課 岡野様）、佐藤委員（理事 鷹野様） 後藤委員（事務局 小夫家様） 【海上保安庁】栗津救難課長 【協会関係者】佐久間理事長、加賀谷常務理事、小柳安全事業部長 安全事業部／平川・小島		

① 平成28年度 DAN JAPAN の現状について事務局から説明が行われ、意見等が出された。

◆DAN の入会基準について

- ・現在、DAN 入会および会員資格は、C カード認定が要件である。職業潜水にも範囲を拡大してほしい。
 - ・講習中の事故への保険適用が必要ではないか。C カード取得前のダイバーも入会可能にできないか。
- 【事務局】DAN 会員は、C カード取得レベルの知識を保持している、という前提で保険付与されている。それ以外に拡大した場合、リスク（保険支払）が増大するため、現在の会費での運営は困難である。今後、様々な意見を踏まえて検討することとしたい。

◆ホットラインについて

- ・ホットラインは公益性が高く、DAN の存在価値を高める。このため、会員のみならず非会員に公示するべきと考える。
- 【事務局】現在、ホームページでは開示している。受電時には人道的立場から対応している。

◆医療相談について

- ・医療相談の案件は、回答するのに時間と労力を使うものもある。限られた医療資源を有効に活用するためにも、どの程度まで対応するのか決めた方が良くはないか。
 - ・医療相談の信頼性が高まることによって、DAN 自体の信頼性が高まり、会員獲得につながる。会員は無料で対応して差別化をはかり、非会員は有料で対応するなどの住み分けが必要と考える。
 - ・医療相談といっても医療行為になるため、責任が伴う。慎重な対応が必要である。
 - ・医療相談事業を本格化させるにはいろいろな要素を勘案して頂きたい。
- 【事務局】医療相談の運営は、DAN にとって非常に重要な提供サービスと考えている。今後ともご意見を伺いながらサービスの向上を目指したい。

◆DDNET について

- ・信頼できる DDNET の構築は非常に重要である。今後とも是非推進して頂きたい。学会とも連携して情報の発信をして頂きたい。

② 平成28年度（上半期）の活動状況について事務局から説明が行われ、意見交換が行われた。

◆協会誌（海洋レジャー）の創刊について

- ・既存の会報誌「Alert Diver」に比較し、「情報誌」という意味合いが薄くなったように感じる。
 - ・印刷物も必要であるが、経費および利便性を考慮し、従来の Alert Diver の名前を使用して、デジタルで情報提供が良いのではないか。
- 【事務局】最近は様々なデバイスで閲覧したいという希望もあるため、ホームページで会員のページを充実させることが重要と考えている。Alert Diver のバックナンバー、さらには今回「Alert Diver Lite」という形でデータを掲載している。

- ③ 収支報告（平成27年度決算）について、事務局から報告が行われた。
- ④ 活性化提言への取組状況について、進捗状況の報告及び今後の予定について事務局から説明が行われた。
- ⑤ 運営委員会による検討案件について事務局より2案件が検討議題として提示され、意見交換が行われた。

◆ WEB で提供する安全情報について

- ・判断基準になるのは、公益性と緊急性だと思う。緊急性があるものに関しては、公益性が重要となる。一方、MyDANに掲載している情報は編集に手間がかかっているため、情報に価値がある。緊急性が低く情報の価値が高いものはMyDANの中に掲載したほうが良い。

◆ DAN 運営の状況と29年度予算の項目について

事務局から29年度予算において「DAN 会員システム」の再構築を実施しその後会費の多様化を検討している旨の説明があり、様々な意見が出された。

- ・WEB 会員と紙媒体会員に分けて会費も違ったものにしたらどうか。
- ・年会費に関して、継続会員を考慮して欲しい。自動車保険のように無事故で継続された方の特典があるようにしたらどうか。

【事務局】状況の判断と経営判断を行うために、具体的な内容は頂いたご意見を踏まえて検討してまいりたい。